

滋賀県の インフラ・ストック効果

平成28年1月

琵琶湖に浮かぶ多摩島(平瀬)と竹生島(高)

Mother Lake
滋賀県

■ 街道の交差点 滋賀

- 鉄道が敷設されるまで、琵琶湖水運は、日本海や畿内を結ぶ重要な交通手段。
- 主要街道が縦横に交差。街道を往来した近江商人は、日本各地に様々な物資・情報をもたらし、日本の商業発展に大きく寄与。
- 水運・街道が、今日の滋賀の豊かさの基礎を構築。



■ 滋賀の歴史と社会資本

- 古来より、日本の交通の要衝。道路を舞台に、数々の史実が生まれた。
- 日本一の湖沼、琵琶湖。利水・水運により、多大なる恩恵を享受。

日本の歴史 滋賀の動き・関わり

飛鳥	672 壬午の乱 (大津・大津郡)	琵琶湖
奈良	1184 宇治川の戦い (大津郡・大津郡)	琵琶湖
平安	1221 東山の乱 (大津郡・大津郡)	琵琶湖
鎌倉	1306 鎌倉の戦い (大津郡・大津郡)	琵琶湖
室町	3 美濃による天下統一 (大津郡・大津郡)	琵琶湖
安土・桃山	豊臣秀吉による八幡堀整備 (大津郡・大津郡)	琵琶湖
江戸	徳川の整備が進む (大津郡・大津郡)	琵琶湖
明治	東京への通船 (大津郡・大津郡)	琵琶湖
大正	近代土木の興隆 (大津郡・大津郡)	琵琶湖
昭和	高度経済成長 (大津郡・大津郡)	琵琶湖
平成	日本初の高速道路 名神高速道路(東東一尼崎)開通 (大津郡・大津郡)	琵琶湖

インフラ・ストック効果の歴史

■ 河川改修と下水道整備の連携治水 - 都市部の浸水リスクを低減 -

○ 中ノ井川河川改修事業 (東栗東市)は、企業人口が集中する都市部の浸水リスクを低減。

【中ノ井川河川改修事業】

- 期待されるストック効果
 - 浸水リスクを低減し、安全・安心を確保。
 - 琵琶湖環境・経済活動への影響を軽減。
 - 河川の防災効果、下水道整備による、安全・安心感への影響。

合計 71%

■ 下水道 - 琵琶湖の水質を保全 - これからのインフラ・ストック効果

○ 水処理施設を増設するとともに、下水道未普及地域を解消。

- 琵琶湖はわが国最大の湖で、第2位の蓄水量の約4倍の面積。
- 日本の人口の1割以上を支える「命の水」の源。

近畿1450万人の水源としての価値

- 琵琶湖 113万人
- 京都府 181万人
- 大阪府 882万人
- 兵庫県 277万人
- 合計 1454万人

期待されるストック効果

- 琵琶湖域1450万人の生活や産業を支える琵琶湖の水質を保全。

■ 水と共生する滋賀

○ 明治期明渠建設の砂防堰堤(オランダ堰堤)は土木遺産に。今も農民を守りつつ、休日の憩いの場。

オランダ堰堤 (大津市)

○ 昔から営まれる、日々の暮らしに息づく高度な「水の文化」が、現在まで継承。

暮らしに活かす

- 水が育む
- 生き物・作物を育む

琵琶湖の水質(高島市)

水質めぐり(近江八幡市)

琵琶湖の水質(東近江市)

琵琶湖の水質(高島市)

■ 新名神高速道路 - さらなる企業立地の推進 -

○ 大津IC以西の延伸により、中京と京阪神の圏外圏内に近い地理的優位性をさらに向上。さらなる企業立地の進め、地域経済を活性化。

新名神高速道路延伸による圏外圏内の圏内圏外の変化

琵琶湖地域の工業集積地・産業地帯の分布

琵琶湖地域の製造業の発展

新名神高速道路延伸によって圏内に立地した企業

■ アクセス道路 - 地域発展を支援 -

○ 名神高速道路にアクセスする幹線道路の整備により、企業・住宅の立地を推進。

周辺人口の推移

人口集中地域の拡大

山手幹線(国道大津武芸川橋) H16.12 開通

琵琶湖大橋

■ 天井川改修 - 浸水リスクを低減 -

○ 平成14年に新河川へ通水し、天井川だった旧河川を廃止。浸水リスクを大幅に低減。

○ 旧河川は、幹線道路として活用。周辺では店舗立地が進み、人口が増加。

天井川改修後(平成20年)

天井川改修前(平成14年)

天井川改修後(平成20年)

天井川改修前(平成14年)

■ 琵琶湖の自然再生 - 固有の生態系を保全 - これまでのインフラ・ストック効果事例

○ 全国を上回る下水道の普及により、赤潮発生は減少、南端の透明度が向上。

○ フナ・モロコ等の産卵繁殖地となるヨシ帯を造成【水産資源整備事業】

○ ヨシが自然に伸びる力を引き出して、失われたヨシ群落を再生【琵琶湖ヨシ群落自然再生事業】

○ 人口湖畔の再自然化

琵琶湖の自然再生

琵琶湖の自然再生

琵琶湖の自然再生

■ スマートIC - 地域産業・観光を支援 -

○ 名神高速道路・北陸自動車道沿線は、生産活動が活発で、観光資源が豊富。

○ 沿線とのアクセスを高め、高速道路が通過する誘因を、広範囲に拡大。

【事業中】H28供用目標 (仮称)小谷城スマートIC

【事業中】多賀SA

【供用中】湖東三山スマートIC

【供用中】衛生スマートIC

【事業中】本線同時供用目標 (仮称)新名神大津スマートIC

■ 「命の道」 - 災害時の孤立集落を解消 -

○ 近年、集中豪雨による斜面崩壊が頻発。

○ 豪雨災害で孤立集落が発生しないように、斜面対策を実施。

○ 地域の現状課題

- 災害危険性の高い山間部で高い孤立リスク。
- 災害時に道路が寸断されれば集落が孤立し、住民の命の危険に直面。

期待されるストック効果

- 山間部集落の孤立リスクを解消。
- 住民の安全・安心を確保。

集落が孤立しないための道路整備による、安全・安心感への影響

合計 65%

■ 砂防堰堤 - 土砂災害リスクを低減 -

○ 平成25年台風18号豪雨で、2基の堰堤が約17,000㎡の土砂災害を発生。

○ 土石流は集落に到達したものの、人的被害はなく、下流のJR・国道等への被害を防止。

堰堤建設費 3.2億円

15億円 推定被害軽減

砂防施設がなければ、人的被害を含む大被害となった可能性大

■ 高速道路 - ものづくり県への発展 -

○ 昭和38年の名神高速道路開通により、沿線に工場立地が進展。日本有数のものづくり県へ。

○ 開通後、栗東市の土地利用は急増。人口は約4倍に増加。

○ 産業で賑わうストック効果

滋賀県は全国有数のものづくり県

県内生産に占める主要産業の割合(H24)

1 事業所当たり付付産額(H24)

■ 中心市街地活性化 - 次世代のためのまちづくり -

○ 今後20年間人口が増え続ける栗東市では、駅周辺の中心市街地を活性化するため、赤いまちづくりを推進。

【栗東市中心市街地活性化基本計画】

地域現状課題

- 大規模施設が駅周辺のロードサイドに集中。
- 商店街の空き店舗、空き店舗が増加。

期待されるストック効果

- 幅広い世代が交差するまちの形成。
- 個性的で魅力のある店舗が集積するまちの形成。
- 赤いまちの個性の高いまちの形成。

■ 国体関連 - 国体レガシーで県民を健康に -

○ 彦根城(金亀公園)隣接地に彦根都市公園を整備し、平成36年国体主会場に活用。

期待されるストック効果

- スポーツ施設を増やす人が増加。
- スポーツ関連消費が増え地域経済が活性化。

国体彦根城

彦根都市公園

彦根都市公園

インフラ・ストック効果を生み出す滋賀県内の主な事業



■ 国道161号 — 観光資源を生かして湖西を活性化 —

■ 地域の現状・課題

- 湖西地域は、京都・大阪から100km圏内、自然環境に恵まれ、アウトドア型の観光資源の宝庫。
- 休日には長時間の渋滞が発生、観光客が持つ湖西地域への印象が悪影響。

■ 期待されるストック効果

- 京阪神と湖西をつなぐ唯一のルートの渋滞を解消、これまで敬遠してきた観光客の誘致を実現

■ 地域効果

- 高規格から近いはずなのに、渋滞のイメージが強い。道路状況が改善されれば、需要があるのに、リピーターが広がりません。
- 渋滞の解消により、湖西地域の観光資源が生かされます。人の交通により、持続可能な成長につながります。



■ 国道1号 — 付加価値が高い企業活動を効率化 —

■ 地域の現状・課題

- 府県境を結ぶ国道1号は渋滞が頻発。
- 沿線には国内屈指の優良企業が立地するも、企業活動を阻害。

■ 期待されるストック効果

- 人の移動、物の移動の両面で、効率的な企業活動を実現。

■ 地域効果

- 道路渋滞により、滋賀県製造業所で開発した製品を運ぶのに時間がかかり、顧客へのサービスが滞ります。
- 土日・祝日も含めて毎日発生しているため、観光客が増加する時期の渋滞の影響は大きい。
- 国道1号渋滞状況を見逃し、早急の対策。高速道路を使用、迂回など、様々な工夫を必要とします。
- 国道1号の渋滞が緩和されれば、抜け道を走行できず渋滞に巻き込まれる大型トラックについても、効率的な輸送が実現します。



■ 琵琶湖の素早い水位低下 — 農作物被害の低減 —

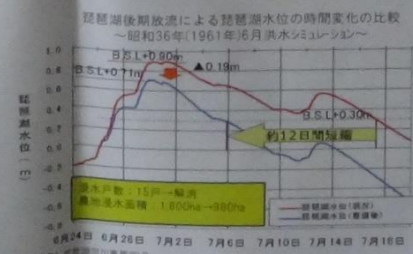
- 後期放流対策として、瀬田川河道掘削等により流下能力を大きくし、豪雨時等の浸水被害を減少。

■ 地域の現状・課題

- 豪雨後の高い水位継続により多大な被害。
- 後期放流対策による速やかな水位低下と浸水域縮小が必要。

■ 期待されるストック効果

- 農地の浸水期間12日間短縮、浸水面積の半減。
- 浸水域の農作物被害が減少。
- 京阪神など大消費地への農産物販路拡大。



- 平成29年の台風19号など豪雨時の琵琶湖水位上昇は、低下するまで長い期間を要し、米や大豆など農作物も多大な被害を受けてきました。
- 短時間で水位低下が実現すれば、農作物被害も減り、安定した生産の実現につながるものと期待されます。

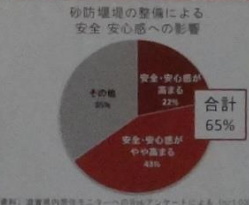
■ 砂防施設 — 県民・交通の大動脈の安全確保 —

- 森の前川砂防事業では、住民の安全・安心確保に加え、北陸道・JR北陸本線の破断回避にも寄与。



- ### ■ 地域の現状・課題
- 山麓部を通過する交通軸は、豪雨時に土石流による破断リスクあり。

- ### ■ 期待されるストック効果
- 災害リスクを低減し、安全・安心を確保。
 - 近畿・中部と北陸間の広域的な人物の流動を維持。



■ 国道8号 — 渋滞解消による企業活動の支援 —

■ 地域の現状・課題

- 2車線の国道8号は渋滞が慢性的に発生。
- 企業活動や通勤に影響。

- ### ■ 期待されるストック効果
- 人の移動、物の移動両面で、事業所の効率的な企業活動を実現。



- ### ■ 地域効果
- 配給時には、渋滞が発生することを覚悟して出荷時間を早めに設定しています。
 - 渋滞が原因で、出荷予定時間にトラックが到着しに遅れない時も、余分な物流コスト発生につながります。
 - 渋滞が解消すれば、ドライバーの勤務時間削減や効率的な配車、物流コストの削減につながる可能性があります。

■ 天井川改修 — 平地河川化で破堤リスクを低減 —

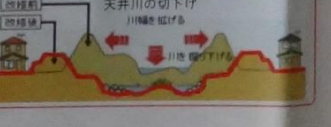
- 金勝川河川改修事業では、人口集中地区の浸水リスクを大きく低減。

■ 地域の現状・課題

- 天井川は破堤による被害が甚大。
- 平地河川に比べ天井川の堤防は高く、地域を分断。

■ 期待されるストック効果

- 災害リスクを低減し、安全・安心を確保。
- 土地利用、事業所立地にも期待。



- 道路事業
- 都市計画事業
- 河川事業
- 下水道事業
- 砂防事業
- 河川事業